



回顧と展望

浅野 純次

(経済倶楽部理事長)

▼波乱の一年でした。「千年に一度」が繰り返し言われましたが、飛行機事故と同じで何百万回に一回でも墜落しては困るわけで、津波も原発も最悪中の最悪に備えた自衛策とかフェイルセーフとかが求められます。そこまで考えては効率が悪すぎるといふなら、津波なら安全地帯へ逃げる方策を考えるだけ、原発稼働はあきらめるしかない。そういう単純なことがわかったということでしょう。来年は大地震と津波の確率もさることながら、富士山その他の大噴火が起きたときの対応も地元としては怠りなくあつてほしいものです。

▼放射能汚染をめぐることは、たとえ0・1ミリシーベルトでも問題だという人が自衛するのは当然かもしれない。しかし「がんばれ」と言う裏で、福島という地域、福島産の物品は危険だという不安を強める一方の報道、消費行動、市民行動が加害者となっていることは否めません。不安を増長するばかりのメディアのあり方にも疑問を感じます。先日もストロンチウムが検出されたという新聞記事が大きく出ていましたが、原発由来でないという続報は何分の1かの扱いでした。チェルノブイリとは何が違うのか、という種類の報道にもお目にかかったことがあります。来年は報道のスタイルを見直していつてほしいものです。

▼波乱の第二はTPPです。交渉はこれからですが、賛否両論とも声高なほどには説得的でないように思えます。バスに乗り遅れるなどという論は、日本の農業が亡びるといふ論と五十歩百歩で、論議がかみ合うはずもなし。TPPへの日本の参加でいちは喜んでるのは

アメリカですが、なぜ喜んでいいのか疑ってかからないのはお人良しすぎるのではないか。通商交渉という名の長い道程の先得をするのは誰かが大事で、ウィンウィンの保証はどこにあるのでしょうか。

▼アメリカの狙いは、農業では遺伝子組み換え作物の輸出、そして何よりもサービス分野にあると思つています。会計、法曹を制するものは世界を制すであり、マネーを狙うなら日本と中国です(ただし中国はタフすぎるので後日を期すはず)。その点、予算委でISDS(投資家対国家の紛争解決)条項について「寡聞にして知らない」と答えた野田首相が、「TPPのような案件は首相個人のイニシアティブで進められる」などと言っているのは驚くべきことです。国境を越えた訴訟事件の更なる頻発は日本のような国にとつては最も深刻なリスクの一つで、そんな甘い首相にバス(どこ行きか?)に飛び乗ってほしくありません。

▼第三はEUの大波乱ですが、最終的にはドイツが面

倒を見るしかないでしょう。今頃は超マルク高で日本並みに苦吟していたところで、だからこそ余裕もあり義務もあるわけですが、なにしろ「利己主義的でヨーロッパ的態度がとれない」とエマニエル・トッドに喝破されているドイツですから限界は明白です。

▼ユーロ安がまだ続くとするれば、来年は日本企業にとつて安い買入物が可能なのではないか。欧州企業の抱える債権や金融商品など「バーゲンセール」の最終章へ向けて強い円を最大限に生かすことが、EUのためでもあり、円高防止にもつながって一石二鳥ということになる。溜め込むことで自分の首を絞めてきた日本企業、国民が来年は賢い行動に出ることを期待します。

▼経済倶楽部第三代理事長の原田運治さんがこの12月で100歳になりました。耳こそ遠くなられたもののまだまだお元気です。創立者の石橋湛山氏が88歳、初代・三浦鏡太郎氏が98歳、二代・宮川三郎氏が88歳と長寿揃いですが、さらなる記録更新を期待します。